

(仮称)くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会講演会

日 時 平成 30 年 11 月 18 日(日)

14 時 00 分～16 時 00 分

場 所 201 会議室

1 開 会 (主催者あいさつ)

2 管理運営経過報告 資料 1

3 講演

「“私のサードプレイス” 次世代に向けた機能融合施設の活かしかた」

講師 伊東直登 氏 資料 2

4 閉会

わたしの“サードプレイス”

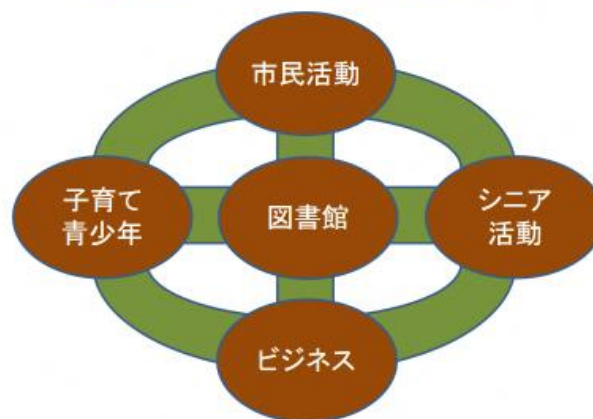
松本大学
伊東 直登

■本日の視点

なぜ機能融合か
図書館とは何か
図書館の可能性

■塩尻市が通った道 — 「機能融合」という考えが生まれた背景—

えんぱーくの活動(機能)



□計画スタート 見えてきた課題

形ばかりの複合施設 ⇒なぜ? ⇒行政の縦割り + ○○の縦割り

反対意見の存在 「箱物反対」 「図書館は使わない」

□どうしよう? みんなに役立ち、みんなに喜ばれ、みんなに必要とされる施設をつくるしかない!

□なぜ「みんなの施設」にならない？

今までのサービスなら今までの人が来るだけ

⇒今まで通りの今までの人のための施設

街に賑わいを求めるなら

⇒今まで来なかった人が来る仕組みを！

⇒新しい利用者は新しいサービスが必要！

⇒「相乗効果」を本気でできないのか！？

⇒連携では当たり前（それすら課題ですが）

⇒機能融合

■活動を「つなぐ」ために —より多くの人を使うためには多様な機能を—

□機能融合とは さまざまな機能が一体化すること。

つまり、一つのものが多様な機能を持っていること。

<写真にて事例紹介>

■図書館は役に立つ、と思っていますか？ —まちづくりと図書館—

□図書館の存在意義と読書

図書館の1断面

国名	調査年	図書館数／10万人	一人あたり貸出点数
日本	2005	2.31	4.86
アメリカ	1995	5.77	6.13
イギリス	1998	7.88	9.76
カナダ	1995	12.06	6.66
ドイツ	1998	14.78	3.95
フィンランド	1999	22.26	19.20

『豊かな文字・活字文化の享受と環境整備』2006 財団法人日本図書館協会より

□そもそも今までの図書館て？

図書館法（1950） ⇒ 無料・開架・貸出・レファレンス
貸出サービス・児童サービス・全域サービス

結果 図書館の充実 1985 : 1,633 館 ⇒ 2015 : 3,261 館
貸出数の急増 1985 : 217,144 千冊 ⇒ 2015 : 690,480 千

冊

□そして、もう一つの結果

読書の館 無料貸本屋批判
⇒ それでも、たった年5冊/人
⇒ だから、年5冊/人？
⇒ 読書好きな人のための図書館

⇒ 図書館の役割を問うときが来ています。

□これからの図書館

読書の館からの脱却

- ⇒ 地域（みんな）に必要とされる図書館へ
- ⇒ 課題解決型図書館
- ⇒ コミュニティの「場」としての図書館
- ⇒ サード・プレイス

□課題解決型図書館とは？

- ⇒ 適切に情報を取得し、評価し、自己責任で判断
できる地域・個人の拠り所となりうる図書館
- ⇒ 自立する地方の時代
- ⇔ 一部の人のための図書館

□情報提供できるのは誰？

- テレビ・ラジオ 今必要な情報を提供しているか？
- 出版流通 書店に必要な専門書・実用書があるか？
- インターネット 体系的網羅的な知識が入手できるか？

□図書館の特性

- いつでも誰でも使える施設
- 特化しない情報提供機関（専門機関の敷居は高い）
- 問題や課題の複合性に応えられる
- 関連情報・周辺情報・すき間情報・他分野情報

□きちんと情報提供できるのは？

課題解決に必要な情報を、周辺情報も含めて、体系的網羅的に
提供する情報提供システム

⇒図書館

地方にこそ質の高い図書館が必要

□そのときの読書とは？ 「読書」 の変化

⇒ 1冊通読とともに、複数部分読書へ ⇒ 情報収集型読書

□幅広い分野・関心・問題に応えられる図書館の読書

幅広い分野とつながっている図書館

幅広い分野と「連携」しなければ、図書館単体では対応不可能

□複合施設と図書館

施設利用から考えた複合施設の在り方と、図書館サービスから考えた今後の図書館の在り方が、「機能融合」として同じスタート地点にたどり着きました。

■地域を応援する図書館活動 —塩尻市の事例紹介—

□図書館と地域づくり

塩尻市では、より多くの皆様に市民交流センターを使っていただくための仕組みとして「機能融合」を考えました。

でも、「機能融合」は、市民交流センターにとどまらず、地域のさまざまな活動や人々がつながって一体化すること、つまり、地域づくりにほかならないと考えるにいたりしました。

市民交流センターは交流の場だけでなく、地域を応援する施設としての役割を強く意識するようになったのです。

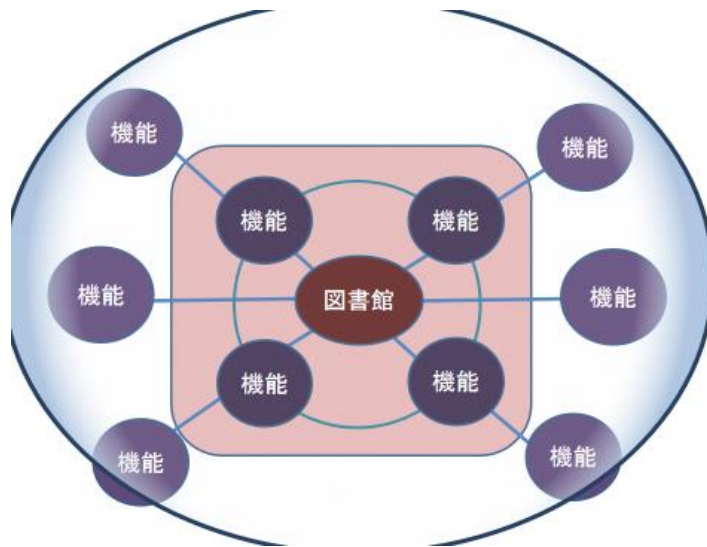
□図書館ができる「つなぐ」仕掛け

必ず情報(本)とつなぐ仕掛け

ほかの機能(組織・人)とつながることで得られる新しい図書館サービス

ほかの機能を応援し、応援先とその相手の役に立つバックアップサービス

人や知識、活動が交流し、つながり合う「場」の提供



- ・ワインコーナー 音楽と朗読とワインイベント ワイン大学（市農政課）
 - ・企業セミナー（商工会議所）
 - ・農業経営・栽培リスト（JA）
 - ・企業展示
 - ・博物館展示
 - ・しりぜみ（まちゼミ）
 - ・高校生イベント
 - ・ジャズコンサート
 - ・信州しおじり 本の寺子屋
 - 著者による講演会
 - 小学生ツアー
 - 帯コーナー
 - ウォーリーをさがせ
 - ナウマンゾウ講演会・ワークショップ
 - 3D プリンター
- 等々

■役立つ図書館を目指して

人と情報をつなぐ

- ・ 情報を的確に届ける
- ・ 情報との新たな発見や出会いを創出する

図書館機能と他の機能をつなぐ

- ・ 今までに無いサービスを提供すること
- ・ 新しい図書館を地域に生み出すこと

今までに無いサービスを提供する、新しい図書館を地域に生み出すために

- ・ 今までの既成概念からの脱出
- ・ 地域の多様な機能や分野との連携

⇒ 地域を支え、
地域を活かし、
地域の拠点となる施設づくり

地域になくてもならない図書館づくり
図書館が応援する地域の拠点づくり
いろいろな目的で
みんなが集まる新しい拠点づくり

それが黒部市でも
はじまっているのではないのでしょうか

そこでは皆さんが主人公です

ご清聴ありがとうございました。